

平成 29 年度 研究成果報告書
Research Achievement Report FY2017

講座名・職名 Course Title・Job Title	アジア I 講座・講師
氏名 Name	鈴木慎吾
専門分野 Academic Field	中国語学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	切韻系韻書の増補改訂史
<p>今回の科研課題では、とくに『切韻』残巻のデータ化に重点を置いて作業を行っている。二年目（平成 29 年度）に予定していたタスクは c) データ入力、d) データチェック、e) 公開方法の検討、f) 公開作業の 4 項目であった。</p> <p>c) のデータ入力については、今年度は王三（完本王韻）、切三（S.2071）、唐韻残巻などの大物の資料のほか、小断片（P.3693 など）の入力も予定以上のペースで進み、残るは王一（P.2011）と王二（裴務齊本）の一部のみとなった。これらは残り半年程度での完成を見込んでいる。</p> <p>上記データ入力と平行して、d) データチェックの作業も開始している。同時に、異体字処理などの作業も行っている。今後は主にこのチェック作業にシフトしていくことになる。これは最終年度まで続け、データの精度を高める。</p> <p>e) 公開方法の検討については、さしあたり韻目→小韻をディレクトリ式に表示するインターフェースを作成し、さらに廣韻の韻字を検索する仕組みを作成した。すでにある Web 韻図とのリレーションも実現した。今後は注文検索のほか、残巻の残存状況をグラフィカルに示すなど、さらに工夫を加えて使いやすいものにしていく予定である。</p> <p>f) 公開作業については、今回はデータがある程度出来た段階で随時アップロードする方針としており、これまでに 8 割方のデータを掲載している（下記 URL）。最終年度までに完成を目指す。</p> <p>上記科研に関連して、今年は『切韻』に関して以下の研究発表を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『切韻』の韻序に関する試論 一遠藤説、平山説を基礎として一（平成 29 年 8 月 25 日、漢デジ 2017、北海道大学） ・「中古音韻尾の円唇・非円唇対立について」（平成 29 年 11 月 12 日、日本中国語学会第 67 回全国大会、中央大学） 	